

～A班 班活動～

テーマ： 歴史と文学を訪ねて - 新池埴輪製作遺跡

日時： 6月12日(月) 13:00～15:00

阿武山の麓、上土室にある新池埴輪製作遺跡を訪ねました。

ここ新池遺跡は、継体大王の墓と言われる今城塚古墳のハニワを造った工房跡です。

丘陵一体約3万㎡にひろがる日本で最大級のハニワ製作工房の様子が伺えます。

(年間生産能力は約7000個だったようです)

この工房が活躍したのは、今から約1500年前で、ハニワを焼く窯18基と工房(作業場)3棟、  
工人(職人)たちの住居が整っていました。

○プロムナード前にて



\* 解説と20種類の復元ハニワが出迎えてくれています。

○ハニワ工房

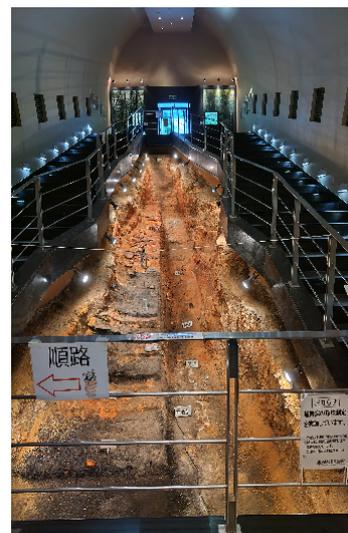


<1号、2号窯の復元>



<発掘調査中の様子>

斜面を利用し掘り下げて造っています



<ハニワ工房館の内部>

新池遺跡最大級の18号窯の当時の様子(手掘りです)

## ○作業場



- ・地面を方形に掘り下げており、1辺が約 12m、高さ約 7m あり、カヤと杉皮で屋根をふいています。  
( 20 ~ 30 人の作業スペース )
- ・当然のことながら釘類は、1 本も使用されていません。

## ○製作された埴輪の一例:家型、円筒埴輪



## ○遺跡を見終えて

- ・この工房による八二ワ造りは、今城塚古墳ばかりか、近隣の太田茶臼山古墳や番山古墳等にも供給されていたようですが、大型の前方後円墳を築かなくなった、550 年頃、八二ワ造りも終焉を迎えたようです。
  - ・約 1500 年前の工人たちの技術力の高さに驚かされるとともに、毎日毎日、手作業による八二ワ造りに奮闘しながら、精一杯、生きたであろう証を実感することができました。
  - ・八二ワ造りの場所は、全国で約 90 ヶ所程、見つかっていますが、大王のための八二ワ造りの様子が明らかになっているのはここだけです。
- 今や、高層マンション群に囲まれた場所となっていますが、このかけがいのない遺跡は、未来の人々のためにも存続してほしいと強く思いました。

(文責:班長)